

安全データシート

改訂日: 2025年4月1日

1. 製品及び会社情報

製品名
推奨用途
会社名
住所
電話番号

炭酸ナトリウム十水和物
試験研究用
米山薬品工業株式会社
大阪府中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
DA0100

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類
健康有害性

急性毒性(吸入): 区分4
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 区分1
特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分3(気道刺激性)
特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分3(麻酔作用)

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
吸入すると有害
重篤な眼の損傷
呼吸器への刺激のおそれ
眠気又はめまいのおそれ
【安全対策】
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
【応急措置】
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。
【保管】
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

注意書き

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名
別名
化学式又は構造式
化学物質を特定できる一般的な番号
成分及び含有量
官報公示整理番号(化審法、安衛法)
その他

化学物質
炭酸ナトリウム十水和物
炭酸二ナトリウム十水和物
 $\text{Na}_2\text{CO}_3 \cdot 10\text{H}_2\text{O}$
CAS RN: 6132-02-1
99%以上
(1)-164/8-(2)-2462
HSコード: 2836.20

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。
水と石鹼で洗うこと。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。
口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚: 発赤
眼: 発赤、痛み
経口摂取: 咽頭痛、吐き気、腹痛
該当情報なし。
該当情報なし。

皮膚に付着した場合

眼に入った場合

飲み込んだ場合

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状

応急処置をする者の保護
医師に対する特別注意事項

5. 火災時の措置

適切な消火剤
使ってはならない消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
該当情報なし。

特有の危険有害性	不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び毒性の煙霧を発生するおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがあるため危険でなければ火災区域から容器を移動する。 適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。
特有の消火方法 消火を行う者の保護	
6. 漏出時の措置 人体に対する注意事項, 保護具及び緊急時措置	全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。 環境中に放出してはならない。 水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。 プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。
環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化方法・機材 二次災害の防止策	
7. 取扱い及び保管上の注意 取扱い 技術的対策(局所排気・全体換気) 安全取扱い注意事項 接触回避 衛生対策 保管 技術的対策 適切な保管条件 容器包装材料	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 眼に入れないこと。 飲み込みを避けること。 皮膚との接触を避けること。 『10. 安定性及び反応性』を参照。 該当情報なし。 特別に技術的対策は必要としない。 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。 施錠して保管すること。 酸から離しておくこと。 酸化剤から離して保管する。 ポリプロピレン、ポリエチレン
8. ばく露防止及び保護措置 管理濃度 許容濃度等 日本産業衛生学会 ACGIH 濃度基準値 設備対策 保護具 呼吸器の保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体への保護具	未設定 未設定 未設定 8時間: 未設定 短時間: 未設定 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。 適切な呼吸用保護具を着用すること。 適切な保護手袋を着用すること。 適切な眼の保護具を着用すること。 適切な保護衣を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質 物理状態 色 臭い 融点/凝固点 沸点又は初留点及び沸点範囲 可燃性 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 引火点 自然発火点 分解温度 pH 動粘性率 溶解度 n-オクタノール/水分分配係数 蒸気圧 密度及び/又は相対密度 相対ガス密度 粒子特性	白色の結晶または結晶性粉末 無色～白色 無臭 約32℃ 該当情報なし。 不燃性 該当情報なし。 不燃性 不燃性 該当情報なし。 該当情報なし。 該当情報なし。 水に溶けやすく、エタノールにほとんど溶けない。 該当情報なし。 該当情報なし。 1.46 g/cm ³ 該当情報なし。 該当情報なし。
10. 安定性及び反応性 反応性、化学的安定性 危険有害反応可能性 避けるべき条件 混触危険物質	風解しやすく、約32℃で溶融する。 水溶液は中程度の強さの塩基である。 酸と激しく反応する。 マグネシウム、五酸化リンと反応し、爆発の危険をもたらす。 酸、マグネシウム、五酸化リン

危険有害な分解生成物	該当情報なし。
11. 有害性情報 急性毒性	※十水和物の情報がないため無水物の情報を記載 経口：ラットのLD50 = 2800mg/kg、および4090mg/kg (SIDS (access on July 2008)) はいずれもJISの分類基準の区分外に該当する (国連GHSでは区分5に該当)。 吸入：粉 1.2 mg/L (SIDS (access on July 2008)) より区分4とした。 塵、ミスト
皮膚腐食性・刺激性	ウサギ皮膚に4あるいは24時間適用した試験で紅斑および浮腫ともスコアは0、刺激性なし (not irritating) の結果 (SIDS (access on July 2008)) が得られ、さらにヒトのパッチテストでも4時間適用により紅斑および浮腫ともスコアは0、刺激性なし (not irritating) の結果 (SIDS (access on July 2008)) が得られていることに基づく。なお、ウサギおよびヒトとも損傷皮膚に適用した場合には一次刺激性指数は2以上となり若干の刺激性が報告されている (SIDS (access on July 2008), ECETOC No.66 (1995))。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	ウサギを用いた試験において、「刺激性なし (not irritating)」～「強い刺激性 (highly irritating)」と相反する結果 (SIDS (access on July 2008)) が出ている。その中の一つの試験で、非洗浄眼の場合全例に角膜、虹彩、結膜 (発赤、浮腫) に症状が発生し、14日の観察期間終了時も症状が残り、ドレイズの最大スコア平均 (MMTS) が105と報告されている。また、別の試験の非洗浄眼では、ばく露後1時間で角膜混濁を生じ重度の影響が7日まで持続し、ドレイズの平均評点が角膜で3.8、虹彩で2であり、一部の動物で角膜パンスおよび円錐角膜を起こしていた。以上の結果は重篤で不可逆的眼損傷性を示しており、区分1に該当する。なお、pH = 11.58 (5 wt% aqueous sol. at 25°C) (HSDB (2003)) である。
呼吸器感作性又は皮膚感作性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性	該当情報なし。 該当情報なし。 該当情報なし。 ラット、マウスおよびウサギのそれぞれ器官形成期に経口投与した試験でいずれも母体への毒性および催奇形性を含め発生毒性は認められていない (SIDS (access on July 2008)) が、親動物の性機能、生殖能に対する影響に関してデータはなく分類できない。
特定標的臓器・全身毒性-単回ばく露	ラット、マウスおよびモルモットを用いた試験において、吸入ばく露直後に呼吸障害を起こし、呼吸困難、および喘鳴音が認められ、3-4時間後に治まった (SIDS (access on July 2008)) との記載より区分3 (気道刺激性) とした。一方、ラットに経口投与後の症状として運動失調、虚脱、嗜眠が記述され、生存例では5日目までに症状が消失している (SIDS (access on July 2008))。また、経皮投与後24時間の間に嗜眠が観察されたが死亡の発生はなかったと記載されている (SIDS (access on July 2008))。したがって症状には回復性があり、区分3 (麻酔作用) とした。
特定標的臓器・全身毒性-反復ばく露	ラットに70 mg/m ³ /4h (0.0467 mg/L/6h) を3.5か月間吸入ばく露した試験で、局所影響として気管支上皮の肥厚と剥離、脈管周囲の浮腫が観察された (SIDS (access on July 2008)) が、この所見のみで重大な毒性影響とは判断できない。さらに、雄のみ、一用量のみの試験であり、ばく露による影響についてその他に記載もなく分類できない。
誤えん有害性	該当情報なし。
12. 環境影響情報 生態毒性	※十水和物の情報がないため無水物の情報を記載 短期 (急性)：甲殻類 (ミジンコ) での48h-EC50 = 250mg/L (SIDS 2002) であることから、区分外とした。 長期 (慢性)：難水溶性ではなく (水溶解度 = 5307mg/L, PHYSPROP Database 2008)、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。
残留性・分解性 生態蓄積性 土壤中の移動性 オゾン層への有害性	該当情報なし。 該当情報なし。 該当情報なし。 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意 化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意 国連番号 品名 (国連輸送名) 国連分類 容器等級 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	— — — — 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
国内規制がある場合の規制情報 陸上輸送 海上輸送 航空輸送 応急措置指針番号	消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運送方法に従うこと。 船舶安全法に定めるところに従うこと。 航空法に定めるところに従うこと。 —
15. 適用法令 化学物質管理促進法 (PRTR法) 労働安全衛生法	指定化学物質に該当しない。 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 (炭酸ナトリウム)

毒物及び劇物取締法
消防法

皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の
使用義務物質(炭酸ナトリウム)
毒物及び劇物に該当しない。
危険物に該当しない。

16. その他の情報
引用文献

NITE-CHIRP(製品評価技術基盤機構HP)
職場のあんぜんサイト(厚生労働省)
17423の化学商品

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではあ
りません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 デー
タ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではあり
ませんので取り扱いには十分注意して下さい。